



- 1 梅雨入り前に雨漏り調査を
- 3 **羅針盤** 意識と運命
- 5 スプリングキャンペーンのラストスパート！
- 6 躍進が考える木材と日本文化 ⑩
- 8 「情弱」を考える

梅雨入り前に雨漏り調査を

来月には梅雨入りいたします。本格的な雨季到来の前にぜひ実施していただきたいのが雨漏り調査です。もし雨漏りの疑いがあるのなら、既に躍進の定番商品となっているサーモグラフィ法による『赤外線漏水調査システム』で、必ず調査を実施してください。

散水調査と水張り調査

雨漏りの調査には、一般的に、散水調査と水張り調査があります。散水調査とは、雨漏りが発生していると思われる箇所に、雨降りの時と同じ状態となるように水を撒き、意図的に雨漏りをさせ、原因を確認する方法です。また水張り調査とは、陸屋根の場合に、屋上に水を張って、その水の漏れを確認する調査方法です。

しかし、原因の特定は、熟練したプロですら難しいものです。原因が特定される保証が無いからです。すぐに漏水箇所を発見でき、簡単な処置によって修繕できるケースもあれば、調査を繰り返して、やっと発見できる場合もあります。原因が特定できなければ、外壁、屋根、防水等の全体改修を実施しなければなりません、それではコストも時間も、かかりすぎてしまうのです。

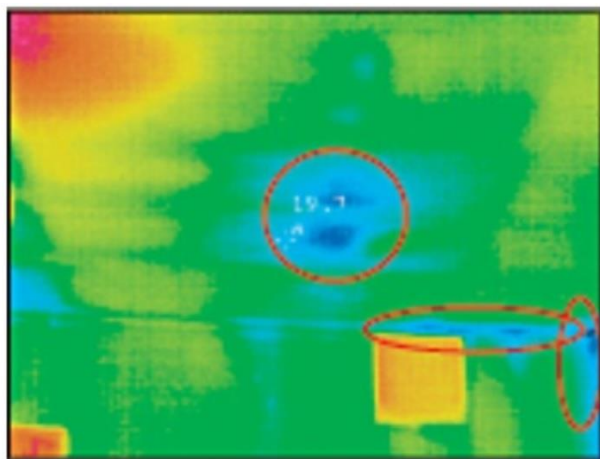
熟練のプロの技を視覚で表示

専門の調査会社が、調査・補修をくりかえしていながらも、一向に雨漏り被害が改善されないという、そんな悩みを一気に解決したのが、サーモグラフィ法による『赤外線漏水調査システム』です。

赤外線は、温度を持つすべての物体から、その温度に応じた波長分布によって、自然に放射されます。その波長分布を、色画像として示し、様々な状態を分析する装置がサーモグラフィです。そのため、今まで発見できなかった雨漏りの侵入口も、明確に特定することができます。

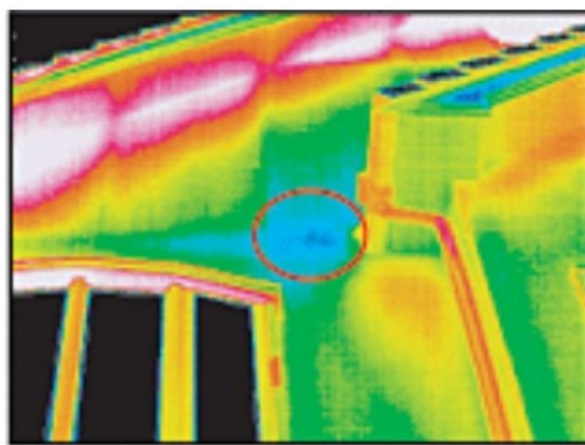
サーモグラフィの特徴は、広い面積を同時に捉えることができるため、モニター上に映し出される温度の相対比較を、ひと目で分析できます。

また、サーモグラフィは、対象物から離れて温度測定ができるため、動いているものや、近づくことができない危険なものでも、簡単に温度計測・分析することができます。



例えば、**上の 2 枚の写真**は、天井の一部と天井と壁の間が漏水している写真です。サーモグラフィ上では、部屋全体の温度は、緑色で表示されています。

そして、暖房などで室内が暖まると赤色に変化します。しかし、**漏水箇所は水色で表示される**のです。サーモグラフィ上では、丸で囲った部分には、水色を通り越して、濃い青色が示されており、ここが漏水箇所であることが分かります。



また、**上の 2 枚の写真**は、外壁に放水後、表面が乾いてから、サーモグラフィで計測したものです。下屋の雨どい脇に、赤外線画像では濃い青色が示され、その部分に水が蓄積していることが確認できるのです。

まさに『赤外線漏水調査システム』は、熟練のプロの技を視覚で表示する最高のアイテムです。ご依頼、お問い合わせは躍進までお気軽に。ご連絡をお待ちしております。

意識と運命

笠井輝夫

(株)躍進代表取締役会長



羅針盤

2 度の大病で意識に気付く

私が毎日投稿しているブログ『森羅万象から学ぶ人生羅針盤』で、既にお話しさせていただいたことと重複いたしますが、改めて意識がどこを向いているかで運命は変わります。それは後述する 2 度の大病を乗り越え、命の意味を知って実感いたしました。

2 度の大病とは以下の 2 つです。1 度目は、2012 年 11 月 28 日に突如として襲ってきた脳内出血です。救急搬送され命を取り留めたものの、左半身に障害が残ってしまいました。しかしあの日から、私の運命は大きく動き出し新しい挑戦の人生が始まったのです。

2 度目は、2014 年 12 月に行った 10 時間にも及ぶ肝臓がんの手術です。再び命を失う瀬戸際に立たされた経験でしたが、今こうして生かされていることには感謝しかありません。

「命を運ぶ」と書いて運命という熟語になります。文字通り、命の流れは与えられるものではなく自らの手で運んでいくものだとは大病を通して深く実感しました。そして同時に意識というものに気付いたのです。

意識を正しい方向に向ける

よく「命あつての物種（ものだね）」と言いますが、生きていること自体がすべての源なのだと気付きました。命があるからこそ笑え、人と繋がれ、夢を描けるのです。まさに命さえあれば何でもできるのです。だからこそ今をどう生きるか、どこに意識を向けて生きるかが何より大切なのだと思うのです。

そして意識の向きが運命を決めることにも気付きました。私たちは、毎日どこかに意識を向けながら生きています。それは未来への希望だったり、昨日への後悔だったり、人の言葉への反応だったり、自分自身の内側の小さな声だったり様々です。

もし、恐れや不安に心を奪われるよりも、小さな喜びや感謝に心を向けて生きたいと思うのであれば、意識を正しい方向に向けるかが重要であることを知ってください。それが行動を生み習慣をつくり、やがて人生そのもの、つまり運命を形づくっていくのです。

意識が行動を決め、行動が成果を生む

躍進でも採用している、土屋ホールディングスの創業者・土屋公三氏が開発した社員教育プログラム「3KM 生涯幸福設計」では、「能力の差はせいぜい 5 倍、意識の差は 100 倍も違う」と指摘しています。

この言葉が示す通り、私たちが本当に大切にすべきなのは、目標に向かう意識なのです。能力とは、途中で投げ出さず物事を最後までやり切る力で、努力や忍耐、計画性、問題を解決する力といった要素が含まれます。しかし、どれほどの能力を持っていたとしても、それを活かす意識がなければ成果にはつながりません。

つまり意識が行動を決め、行動が成果を生むのです。高い意識を持ち目標必達の覚悟を決めた人は、どんな状況でも前向きに取り組み最後までやり遂げることができます。その意識こそが大きな成果を生むのです。

逆境に直面したときこそ、意識の力が試されます。途中で諦めるのか、粘り強く挑み続けるのか。それを決めるのは自分自身の意識なのです。

この考え方を周囲と共有し、チーム全体の意識を高めていきましょう。私たち一人ひとりの意識の変革が、組織の飛躍につながるのです。

運命は自ら変えていける

脳内出血のときも、肝臓がんのときも、私は「もう終わりかもしれない」と思いました。でも、どんなときも心のどこかで「生きたい」と願っていました。その願いは、意識の方向となって、私を前へと導いてくれたのだと思います。

つまり、運命は決まっているのではなく、「どう生きたいか」という意識によって変えていけるのです。だから私は、これからも“生かされた命”とともに、感謝を胸に、正しい方向へ意識を向けて歩んでいきたいと思っています。あなたがもし、少しでも前を向きたいと思うのなら、それだけで新しい運命の扉が開き始めているのかもしれない。

このようにして意識を高め、行動を変え、成果を最大化するのです。この信念を胸に、共に成長し続けていきましょう！

スプリングキャンペーンのラストスパート！

現在、躍進のリフォーム総合提案「足場パック」のスプリングキャンペーンのラストスパートです。そしてその代名詞が、もうすっかりおなじみになった『飛驒炭 床下調湿材』『カーボエース』『床下用攪拌・換気システム』の「床下3点セット」（写真参照）です。

セラミック炭から作られた脱臭調湿材『飛驒炭 床下調湿材』は、床下に1坪あたり約12袋敷つめるだけで床下の湿気をコントロールします。底面をフィルム加工してありますので地面からの湿気もシャットアウトします。

同じく、セラミック炭から作られた土壌改良材『カーボエース』は、保肥性、保水性に優れ、病虫害の発生を抑制します。また、土中から放出されるガスを吸着するほか、pH調整機能、土中有効微生物の繁殖促進効果もあります。

『床下用攪拌・換気システム』は、中央部設置によるダイレクト換気（新方式）により1台で20坪までの床下をカバーします。これは、従来の床下換気扇3台分に相当します。換気と攪拌機能を同時に搭載した高効率換気システムであり、床下中央部の高湿エリアをダイレクトに攪拌換気します。これにより、布基礎や基礎パッキン工法、基礎断熱工法等、あらゆる構造の床下に設置可能です。ご注文、お問い合わせは躍進までお気軽に。



躍進が考える 木材と日本文化 ⑩



笠井輝夫
(株)躍進代表取締役会長

プレカットと金物

木材と日本文化を語る上で、プレカットと金物について触れないわけにはいかないので、今回はその成り立ちと現在、そして神社仏閣に残された伝統建築の必要性をお話したいと思います。

大工さんの修業の中で非常に難しいとされるのが「刻み」です。木造住宅の在来工法では、柱、桁、梁などに壁や筋交いをしつらえて耐力を確保するのです。昭和の時代では各種構造材を組み合わせる継手や仕口は、現場や作業場で鑿を用いて刻み、立体パズルを組み合わせるようにして仕上げていました。

しかしその技能を習得するには何年もかかり、ベテランの大工さんでも結構手間のかかる作業でした。若手の大工さんがきちんとした継手や仕口をこしらえるまでの年数を待っていては、当時の住宅需要に追い付かなかったのです。

そこで登場したのが、プレカットと金物です。ご存知のように柱、梁をコンピューター制御で工場生産し、継手も仕口もきれいに加工したものです。

しかし初期のプレカット技術は甘く、継手や仕口のオスメスのサイズが合わず、ブカブカであったりきつすぎて収まらなかったりとトラブルが多発していたのです。もちろん現在ではそうした点は解消され、精度の高い部材が加工できるようになっています。

プレカットと同時に普及したのが建築金物です。その代表とも言えるのが梁受け金物でした。仕口を加工することなく、柱側に薄い隙間を刻み込んで、そこにステンレス金物のプレート部分をはめ込み、梁や桁と同じサイズの四角い筒状の金物に部材を修め、梁や桁にねじ止めして従来の仕口同様の強度を確保できるようにしたのです。

しかし昔を振り返ると、固い金属の金物が柔らかい木材の柱、梁を、経年変化によって徐々に浸食し、金物を収めた溝やねじ部分がどんどん緩くなってしまいブカブカしていたのです。これについても現在では大幅に改善されています。

残さなければならない伝統建築・技能

そんなにプレカットや金物の技術が進んだのであれば、神社仏閣もオールプレカットで造れば良いじゃないかと考える人もいます。しかしものづくりに携わる者の使命として、神社仏閣については日本の伝統建築文化・技能を残す使命があります。

そのためプレカットや金物を用いる合理性とは別次元の仕事が求められ、それができる宮大工さんをはじめ各種職人さんの育成が、作り手に課せられた責務なのです。

もちろん、見えない部分には、ホールダウン金物は言うに及ばず、積極的に金物を配している新築の神社仏閣も珍しくありません。しかしこうした伝統的建造物は、認定を受ければ適法となるため、できるだけ古典工法に則った形での建築が望ましいと思います。

伝統建築を残すことも大事ですが、伝統技能の継承も同じくらいに大事なのです。これは一般の大工さんにも言えることで、それができないと一人前の大工として認めてもらえません。例えば古い在来工法の住宅において、傷んだ部分を交換してリフォームする際、その場で継手や仕口を刻んで、根継ぎの修繕ができなければならないからです。

『Air 鉋』で伝統文化継承をお手伝い

しかしそうした教育は、各工務店様、ビルダー様におまかせして、躍進では伝統建築の代表である神社仏閣を守るため洗浄に特化して、木の美しさの象徴的建物である神社仏閣を、『Air 鉋』を用いて伝統文化継承のお手伝いをしています。

『Air 鉋』は、水を一切使うことなく、古くなりすすけてしまった神社仏閣の美しさを取り戻すことができるのです。

これは、空気と植物性粉体を対象物に噴射し汚れや劣化層、古くなった既存の塗膜を数ミクロ単位で削り取るなどを施し、美観の再生や木材の長寿命化を目的として開発された乾式工法だからです（特許第 6206898 号）。

植物性粉体の種類や圧力を変化させることで「払う」「削る」「剥ぐ」「粗す」の 4 役を 1 台で行うことができます。詳細は、躍進のホームページをご覧ください（https://yakushin.jp/air_kanna/）。お問い合わせ、ご依頼の連絡をお待ちしております。

「情弱」を考える 住宅コラム

情弱とは情報弱者という意味です。そして「情弱ビジネス」という言葉になると、ズブの素人の無知に付け込んで、あってもなくても良いものを提供することになり、決して良い意味では使われません。

しかしこれが「情弱詐欺」となると完全な刑事事件です。住宅の場合、お施主様が住宅に関する専門知識をお持ちでない場合がほとんどなので、「情弱詐欺」が横行するのです。

典型的な例は、いわゆる床下詐欺、屋根詐欺です。床下詐欺は、「無料で点検いたします」を謳い文句にして、半ば強引に承諾を取り床下に侵入し、住まわれている方に気付かれないように自らの手で無理やり瑕疵を作り、「床下が経年劣化で破損しています」とか、事前に用意した画像データを見せ「シロアリが発生しています」という詐欺です。

さらに、住人に一切の許可も得ず、「処置しておきました」として実は何もせず、法外な請求をすることも少なくありません。「無料点検って言ったじゃないか！」「点検は無料なんですけど修繕は有料です。今回の場合、緊急性を要したもので処置したんです」と一方的なことを言い、「もし代金をお支払いいただけないのであれば裁判になります」と脅しをかけてくるというのが古くからある手口です。

また屋根詐欺の場合は、無料点検での誘導以外に、「通りかかったら、お宅のトタン屋根が剥がれているのが見えた」「軒と外壁の取り付け部分に隙間が見えた」などと言います。住まわれている方が一緒に見ても、そもそも隙間など無いにも拘わらず、「私はプロだから見える」として施工契約を取ろうとします。

躍進のお客様（工務店様やビルダー様）のお客様である地域のお施主様には、「床下は躍進という会社に点検してもらったばかりです。何も異常はありませんでした」と門前払いしてもらいます。「屋根は躍進に見てもらっています。今すぐ連絡します」と言っているだけで、相手が反社の場合もあるので言葉遣いだけは丁寧にお願いしています。

躍進の「地域のホームドクター」としての役割には、こうした「情弱詐欺」からお施主様を守ることも含まれています。工務店様、ビルダー様も、自らのお施主様を「情弱詐欺」から守る使命を忘れず、お施主様が「情弱」にならない十分な情報提供をしてください。

株式会社 躍進 本社 〒337-0043 埼玉県さいたま市見沼区中川106-1 ☎048-688-3388 ☎048-680-7615 東京 〒107-0062 東京都港区南青山2-2-8 DFビル2F 営業所 ☎03-6804-2541 ☎03-6804-2542 URL= http://www.yakushin.jp E-mail=yakushin-no1@nifty.com	関連会社 不動産事業 株式会社 ヤクシンジャパン 関連会社 株式会社 First Arrows ファーストアローズ	事業内容 防水工事：FRP、ウレタン、塩ビシート、 ゴムシート、アスファルトシーリング、注入、 ピンニング、シングル葺き 木材保存工事：床下点検、シロアリ駆除 及び予防、調湿剤、床下換気 等 塗装工事：各種塗装 外部点検：屋根、陸屋根、バルコニー、 外壁 等診断
--	---	--